

ワークショップ【大阪開催】

建物と地盤の動的相互作用の簡易計算法

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 基礎構造系振動小委員会

基礎構造系振動小委員会では、地盤と建物の相互作用効果を取り入れた設計解析モデルをわかりやすく説明する刊行物として、2006年に『建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計』を出版した。

本ワークショップでは、相互作用効果を取り入れた設計・解析の経験がない実務者や学生を対象に、上記の刊行物の設計例を取り上げ、理論と解析モデルの作り方、解析方法を丁寧に解説する。具体的には、①杭基礎建物を対象とした Sway Rocking モデル、Penzien モデルの作成法、②等価線形化法と有効応力解析を取り入れた地盤の簡易液状化解析法、③オープンソースの FEM 解析プログラムである Opensees を使った Peizien モデルによる地震応答解析法を中心に、地盤と建物の動的相互作用の理論や限界耐力計算法による相互作用効果の取扱い方を含めて解説する。

なお、本 WS は今年 1 月に東京で開催し好評を博したもので、今回改めて大阪で開催する。

日 時 : 2011 年 7 月 1 日 (金) 13:00~17:30

会 場 : 大阪大学中之島センター2 階講義室 1 (大阪市北区中之島 4-3-53)

プログラム

司会 : 宮本裕司 (大阪大学)

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 主旨説明 | : 飯場正紀 (小委員会主査/建築研究所) |
| 2. Sway Rocking モデルによる地盤と建物の動的相互作用の理論 | : 泉 洋輔 (呉工業高等専門学校) |
| 3. 限界耐力計算法による相互作用効果の取扱い | : 護 雅史 (小委員会幹事/名古屋大学) |
| 4. 相互作用の現象と構造物の応答との関係 | : 護 雅史 (前掲) |
| 5. 非線形相互作用を考慮した杭支持建物の試設計 | |
| 1) 簡易法による地盤の液状化解析 | : 新井 洋 (国土技術政策総合研究所) |
| 2) 地盤が液状化しない場合の試設計 | : 田守伸一郎 (小委員会幹事/信州大学) |
| 2-1) Sway Rocking モデルによる検討 | |
| 2-2) Penzien モデルによる検討 | |
| 3) 地盤が液状化する場合の試設計 | : 藤森健史 (大林組) |
| 3-1) Sway Rocking モデルによる検討 | |
| 3-2) Penzien モデルによる検討 | |
| 3-3) 地盤の有効応力解析を考慮した Penzien モデルによる検討 | |
| 6. Opensees による Penzien モデルの作成方法 | : 田守伸一郎 (前掲) |

記録 : 柏 尚稔 (大阪大学)

定 員 : 55 名 (申込み先着順)

参加費 (資料代含む) : 会員 4,000 円、会員外 5,000 円、学生 3,000 円

申込方法 : E-mail で「催物名称、上記参加費種別および (本会会員の場合) 会員番号、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス」を明記のうえお申し込みください。

*会員番号の記載がない場合は、会員外として扱わせていただきます。ご了承ください。

申込締切 : 2011 年 6 月 20 日 (月)

申込み・問合せ先 : 事務局研究事業グループ 伏見 E-mail: fushimi@aij.or.jp